



3月の感染症について



まず**新型コロナウイルス感染症**です。

12月から始まった今回の流行(第10波)による患者発生数は、2月に入って漸く減少がみられています。特別な事情がなければ、3月に入ってもこのまま患者数の減少は続いて行く可能性が高いと思われますが、まだまだ感染対策を怠ることなく、油断すること無く今しばらくは患者数の推移を見守っていくべきと思われます。

次に**インフルエンザ**です。

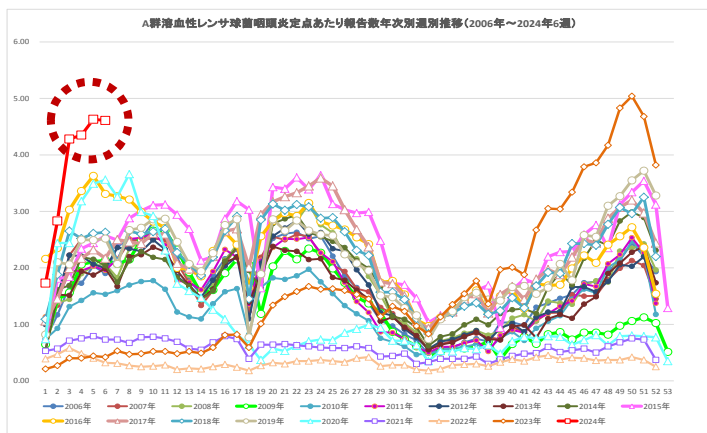
今シーズンのインフルエンザの流行は2峰性となっており、2種類のA型インフルエンザウイルス(AH3及びAH1)による12月をピークとした流行と、1月以降急増したB型インフルエンザウイルスを中心とした流行に分かれています。このB型インフルエンザによる流行も、2月をピークとして3月には減少がみられると予想されます。ただ、3月に入ってもまだ流行状態は継続していきますので、3月下旬に多くの学校が春季休暇に入って患者発生数の大幅な減少が認められるようになるまでは、その推移を見守る必要があります。

3番目の感染症として**A群溶血性連鎖球菌咽頭炎**を挙げます。

図にある通り、12月以降は、これまでのどの時期よりも患者発生数が多い状態が継続しています。また、保菌者も含めると国内は過去に例が見られないほどの蔓延状態が続いていると推定されます。原因菌であるA群β溶血性連鎖球菌(*Streptococcus pyogenes*)は病原性が高く、咽頭炎から糸球体腎炎等の合併症を引き起こすことはよく知られています。また、咽頭炎のみではなく、創口等から同菌が侵入して通常は菌が存在しない筋肉、脂肪組織等に感染が及び、菌血症を引き起こすと短期間の内に急性腎不全、DIC、多臓器不全、ショック状態へと進展していくいわゆる「**劇症型溶連菌感染症**」となる場合があります。四肢の筋膜炎から進展していくことが知られていますが、近年妊産婦の症例も報告されており、当院でもおそらく産道感染から発展した症例を経験しました。3月中は同菌による感染症の蔓延と重症例の発生に注意が必要です。

最後に、新型コロナウイルス感染症の影響が薄れることによって、A群溶血性連鎖球菌咽頭炎のように、2020年以降その流行が抑制されていた様々な感染症が一気に流行しつつあるように見えます。春を迎えますが、2024年は**RSウイルス感染症**はもちろんのこと、これまで何年も流行が見られなかった**マイコプラズマ肺炎**、**麻疹**、**風疹**等の国内流行にも注意していくべきだと思われます。

(感染管理室 安井 良則)



2005年～2024年第6週(2月5日～2月11日)現在まで

図. A群溶血性連鎖球菌咽頭炎の定点当たり報告数週別推移(2005年～2024年第6週)

NEW 感染管理室から新体制になります！



2024年3月より感染管理室の専従看護師として着任しました感染管理認定看護師の永田です。よろしくお願いします。

感染管理室では、医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師による**感染対策チーム(ICT)**・**抗菌薬適正使用支援チーム(AST)**・**事務員**が一丸となり、院内で発生するリスクのある感染症の早期発見に努め、抗菌薬適正使用に基づいた治療、現場で必要な感染対策がスムーズに実践できるよう、調整する役割を担っています。

〈感染管理室の新体制〉

室長	安井 良則
看護師	永田 夏子
薬剤師	松本 芳樹
事務員	辻 美佳

〈院内のラウンド予定〉

- ICT/ASTラウンド : 毎週水曜日
- 侵襲部署ラウンド : 2カ月に1回
内視鏡センター・救急室・手術室
血液浄化センター・血管造影室・栄養部
- クオリティラウンド(全病棟対象)
: 1カ月に1回
- 事務部・リハビリテーション室: 不定期

平常時から感染対策を実施し、感染防止につなげるため、定期的な院内各部署のラウンドを引き続き実施していきます。

感染症が発生した場合においては、患者さんと職員を感染症から守るため、**感染症を拡げず、減少させることを目的**として迅速に対応していきます。感染対策についてご不明なことがありましたら、お気軽にお問い合わせください。

今後とも感染対策へのご理解、ご協力よろしくお願いします。

(感染管理室 永田 夏子)